

令和3年度 建設業デジタル化促進モデル事業現場見学会（栄宝生建設株式会社）

<デジタル化促進モデル事業の実施内容>

導入機器：3次元設計データ作成ソフト、自動追尾型TS

<工事概要>

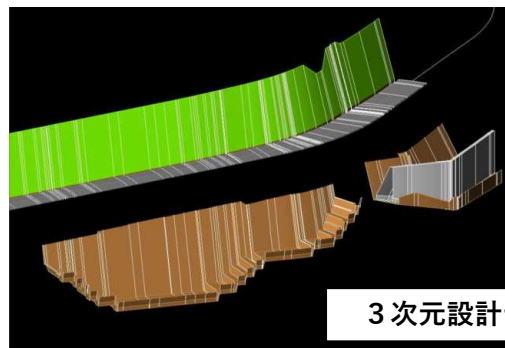
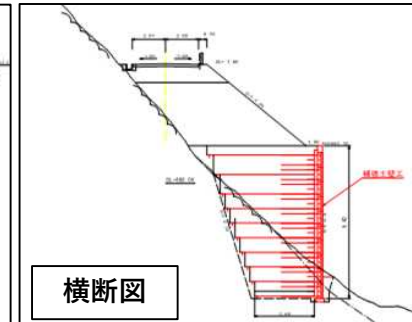
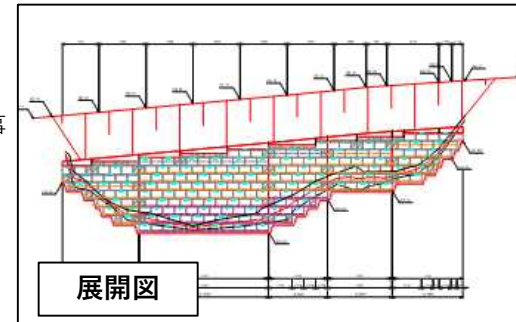
工事名：道交基幹第28号 森林基幹道開設事業下土居桧谷線1工区工事

請負代金：77,000,000円、工期：令和5年7月12日～令和6年3月31日

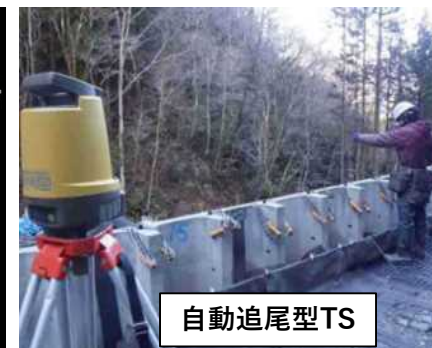
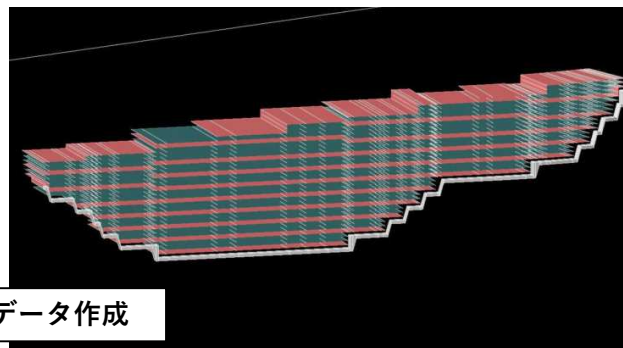
工事内容：施工延長L=88m 切土V=2,364m³、法面工A=970.4m、場所打擁壁工V=312.5m³、補強土壁工A=243.3m²、

U型側溝L=85.3m、ガードレールL=43.0m

<参加者>9名（建設会社：1社1名、県職員：2名、市町村職員：6名）



3次元設計データ作成



自動追尾型TS



プロセス	使用機械等	従来	ICT	効果	評価	施工者のコメント
3次元起工測量	-					杭ナビ及びデータ作成ソフトを活用した現場はこれで3現場目になります。初めて活用した工事では操作等を教えてもらいながらになりましたが、3現場目にもなると自分で3次元設計等が行えるようになり、現場での準備作業も素早く行え、作業員の手待ちが減りました。今後はデータ作成ソフトを使いこなして更に効率を上げる事が出来ればと思います。
3次元設計データ	内製化	1人・日	1人・日	0%	起工測量による設計変更やそれに伴う詳細なデータ作成を行った為、時間がかかったが、位置だし等の作業が円滑に実施できた。	
ICT施工	-					
3次元出来形管理	快速ナビ・杭ナビ	2人・日	1人・日	-50%	二次製品据付時での位置及び高低差の確認、盛土高管理における測定時の人員削減及び時間短縮につながり、コスト削減が期待できる。	
合計		3人・日	2人・日	-33%		

発注者のコメント

自動追尾型TSにより測量を行うことで、作業に必要な人数を削減することができた。ICTを活用したプロセスにおいては、33%の作業日数が短縮された。また、3次元設計データ作成においては、複数横断から詳細な設計データを作成したため、時間を要したが、完成形状を具体的に把握することができ、円滑な施工に役立てることができた。工事の部分的なプロセスにおいて、ICTを活用することで生産性向上が図れた事例である。